

## 学校自主研修事業（特色ある学校づくり）

### 【学校視察】

研修先1：神奈川県立光陵高等学校

研修内容：

授業参観

2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業参観。シンプルでわかりやすい学習指導案、メリハリのある生徒の動きが印象的であった。

観点別評価に関する説明

光陵高では各単元での評価の観点設定、ルーブリックの作成を各教科・科目で行っている。各観点についてA、B、Cの評価をするが、評価の素材（テスト、ノート、課題等）は科目で統一し、各素材の重みも統一している。各観点A、B、Cを決定する基準は、素材を点数化し、どの程度得点したかによって決定する。

学校づくりに役立つ具体案

観点別の評価をより客観的に行っていくために、100点法の評価点見直しの必要性を感じた。その上で、科目を担当する教員間で、評価すべき共通の課題や小テストを設定し、公平に評価できるよう留意することが大切であり、今後各セッションでの検討が必要である。

研修先2：神奈川県立秦野高等学校

授業参観

スマートフォンに配信されたフォームで解答し送信する授業で、生徒の解答の正答率や中央値などが電子黒板に写し出されるなど先進的。教室に配備されたタブレットで、パワーポイントと同様のアプリケーション“スライド”を利用して、プレゼン資料を作成する授業もあり、全体に活動的な雰囲気の中での授業であった。

I C T利活用に関する説明

秦野高では、**Classroom** という機能で、学年またはクラス単位でグループを作成し、連絡事項を一括送信することが可能で、週末課題や予習の指示も出せるということである。また**Form** というアンケート機能を用いて、学校評価や授業評価、いじめアンケートなどをWeb上で配信・回答する試みも行っている。

学校づくりに役立つ具体案

参観した授業では、生徒の指先や脳は常に活動的であり、スマートフォンやタブレットを使うことは総合的に見て効果的であると感じた。Webを利用できる環境整備や、ある程度の台数のタブレットの設置などを目指し、将来的に本校でもI C T教育を取り入れたい。こういった機器やソフトの活用は、授業に対する新しいアイデアを生んでくれる期待もある。